

2020年1月8日

アメリカ合衆国大統領
ドナルド・J・トランプ様

新日本婦人の会
会長 米山淳子

**イランに対する無法な先制攻撃に強く抗議し、
これ以上の軍事力行使をただちにやめ、外交解決と核合意への
復帰を求めます**

アメリカとイランの緊張が激化しています。中東での武力衝突、「新たな湾岸戦争」につながりかねない深刻な事態に、国連や各国政府が自制を求め、アメリカ国内をはじめ世界中で「戦争するな」の声が広がっています。発端は、1月3日、トランプ大統領の指示によって米軍がイラクのバクダッド空港を空爆し、イラン革命防衛隊のソレイマニ司令官を殺害したことです。トランプ大統領自身が「先制攻撃」と述べているように、国連憲章にも国際法にも違反する常軌を逸した行動です。新日本婦人の会は、戦争の危機を高めているトランプ大統領の無法な軍事力行使に、怒りを込めて強く抗議します。

そもそも、緊張激化の根本原因は、トランプ政権がイランとの核合意から一方的に離脱し、イランに対する経済制裁と軍事圧力を高めてきたことにあります。その上での今回の無法な先制攻撃による司令官殺害がイランとの威嚇の応酬、さらには本日のイランによるイラクの米軍基地攻撃という報復へと事態をエスカレートさせているのです。大規模な衝突の可能性が指摘されていますが、そのようなことになれば、中東全体を巻き込んだ戦争へと発展する危険があり、犠牲ははかりしれません。気候変動など人類と地球の生存がかかった課題に直面しているいま、命を奪い環境を破壊する戦争をしている場合ではありません。

事態を打開し戦争を回避する唯一の道は、話し合いによる外交的解決です。新日本婦人の会は、すべての関係国に最大限の自制を呼びかけるとともに、トランプ政権が軍事力行使をただちに中止し、イランとの核合意に復帰するよう、強く求めます。